

## 千葉の園芸デイサービスなりた

室内での脳トレより、農トレはいかが――。農作業体験や農場散策を日課に取り入れた「園芸デイサービス」が千葉県内で広がっている。始めたのは成田市の建設業オーナー、島田隆さん(68)。12年前に旭市内で畠付きのデイサービスを開設し、現在は旭市と成田市で計3カ所、展開する。千葉大学と園芸療法の分野で共同研究を続け、農業がリハビリになる「園芸デイサービス」の普及を目指す。

3月中旬の晴れた日の午後、成田市台方の「園芸デイサービスなりた」でマルチを張った畠にジャガイモの種芋を植え付ける作業が始まった。作業に参加したのは長靴を履いた高齢の男性1人と女性3人。ベンチに座ったり、車椅子で見学したりする利用者もあり、1時間あまり畠で過ごした。

### 専任配置 野菜作り

園芸デイサービスの定員は20人。農村部の台方地区で農家の理解を得て、20haの農地を借りて施設を開設した。農業系大学を卒業したベテランの専任作業員もあり、年間を通して野菜作りを指導する。

施設長の奈良正広さんは「利用者は、天気が良いければ毎日畠に行き、作業が無いときも畠の周辺を歩くほど」。目が悪くても農作業には参加する人もおり、室内での脳トレーイングより、積極的に畠に出る利用者が多い」と話す。「野菜嫌いだったが、5年間の園芸デイサービス利用で野菜が大好きになった」という100歳のお年寄りもいるほどだ。

### 都市住民 積極的に

「成田市の施設の方が農園の散策や農作業体験への反応が旭市の施設に比べて格段に高い。土に親しむ機会が少ない都市

# 畠でリハビリ→生きがいに

住民ほど、「散策や農作業が好きな人が多い」と島田さん。親から引き継いだ木材業から建設業に転身した

島田さんは、公共事業を請け負うことが多く「税金で金もうけをしている」と思われ、悩んだこと

どが園芸デイサービスを

始めるきっかけとなつた。「私は建設業で何もいい思いをしていないが、社会に貢献する事業を展開することで建設業のイメージを変えたい」と奮起。介護や福祉事業で社会貢献できないかと考えた。

### 法人設け 療法普及



## 建設業と大学共同研究／高齢者呼び込み活性化

2004年には、千葉大学と園芸療法の共同研究に着手。農作業がいかに心身を活性化させるとともに、園芸療法の普及に取り組む「特定非営利活動法人(NPO法人)園芸療法勉強会」を立ち上げ、セミナー・シンポジウムを開いてきた。介護や園芸福祉分野での先進的な取り組みが認められ、今年3月には、農水省などが主催する「オリエニッポン大賞」の審査委員特別賞に選ばれた。

島田さんは「農と融合した園芸福祉は私の執念。園芸福祉と高齢者住宅を結びつけて、農業が好きな都市住民を農村に呼び込み、地域と農業の振興につなげたい」と思

(ちば)

J.A愛知厚生連院と名古屋大学、圭学、豊田市が連携。山間地域で暮らす吉の移動を助け、健る仕組みづくりに至る。豊田市足助地域として、自家用乗りシステムや健りサービス、外出イベント開催などを実現する。29日、同病院式を開いた。トマト印式が設立した一

### お年

愛知県  
行政

ヘルスコンシリジュ14人誕生【静岡・三島・函南市】今春、「みしきタ健康づくりヘル

### 野菜食べ健康づくりを

静岡県  
三島市

### 社会性養われ、生活め

### 一般刑法犯で取り組み報告

洋さんは「農業は近隣住民の方と関わりが欠かせない。コミュニケーションを重ね、地域に受け入れられることが犯罪防止につながっている」と

駒澤大学の桐原宏行教授は、出所受刑者は人間関係が希薄化して孤立しやすく、再び犯罪に手を染めてしまうと

『農』トレ

### 更正に効果再犯率が低下

犯罪者が刑期を終えて出所しても、自分の居場所を見いだせず、再犯を起こす障害者や高齢者が多い中、農業で再犯を防ぐという試みが始まっている。日本財団が29日、東京で開いた会合で、農作業が果たす更正の効果について、実践者からは「農業を通して社会性や人間性が養われるため、再犯率が大幅に低くなる」との報告があった。

茨城県内で野菜を生産する